

滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和3年度 第2回)

- 日 時 令和3年11月1日(金) 15:00~16:50
- 場 所 WEB会議
- 出席委員 山岡委員(部会長)、中村真理委員(副部会長)、後藤委員、東委員、河岸委員、岡戸委員、山委員、築地委員、中村勝弘委員
- オブザーバー (株)JR西日本コミュニケーションズ
- 議 題
 - (1) 令和3年度介護のしごと魅力発信事業について
 - (2) 令和4年度の取組について

1. 議題(1) 令和3年度介護のしごと魅力発信事業について

※資料1により事務局およびオブザーバーから説明

【部会長】

- 進捗状況と詳細の説明に対して、質問、確認事項等はあるか。
- 東委員と河岸委員はyoutubeに出していただけなので、楽しみにしている。よろしくお願ひしたい。

【委員】

- ぶっちゃけトークで良いと言われている。口が悪いが、そのままいくつもりであるので覚悟しておいてほしい。相手もラフな質問で、「給料はいくら貰っているの」等なので、嘘は無しで正直に答えて、河岸さんと二人のいつもの掛け合いみたいな雰囲気でしたら、堅いイメージではなく、誰でもできる仕事であることが、伝わるかなと思っている。後は河岸さんが、私が要らないことを言わないように止めてくれればそれでいいと思う。

【部会長】

- 河岸委員よろしく。

【委員】

- 行き過ぎないように止める。

【委員】

- 私共の、ふく楽Caféを取材していただいた。相手は高校生で、事前に説明リストも送っていただいたが、2点気になった。
- 1点目は、ライターさんが百戦錬磨の大人なので、高校生対し矢継ぎ早に質問されることになり、高校生が戸惑って、あまり回答できなく追い込まれたような感じで、我々も横で助け舟を出していたが、今後も高校生の取材があれば、ゆっくりとわかりやすく取材をしていただければと思った。
- 2点目は内容的なところで、これはどうなのかなと感じた質問があったので、原稿ができれば

ば是非確認させてほしい。気付いたところは意見を言わせてほしいと思うので、よろしくお願ひしたい。

【オブザーバー】

○取材の件について、今後は気を付けて改善していく。原稿も確認いただくよう思っている。

【委員】

- 「ON と OFF のケアニン」の取材先と、「しがけあガールズ」が取材に行く事業所を見ると、結構重なっているのて、実際の応募状況と決定に至る経緯を確認したい。
- 応募がなくて、これが全ての応募者という事であれば、こういう事にもなるのかなと思うが、同じ法人の事業所が2つ入っていたり、両方にまたがっている施設もあるが、これはこれで問題ないのかもしれないが、その辺りを教えてほしい。

【オブザーバー】

- 募集させていただくにあたり、ヒアリングシートを各施設に書いていただき、その原稿を元に若年層と、比較的近い方に年齢層の方を選んだ。あとは、ヒアリングシートの内容を参考に、「ON と OFF」については、魅力的な内容を書かれているところを中心に選んだ。
- 「しがけあガールズ」の企画は、比較的数多く回れることも大切だと思ひ、応募内でルートを加味しながら、検討した。また、景観もポイントになると思ひ選んだ。当初は、4施設をピックアップする計画だったが、ルート等を工夫し、結果8施設の取材となった。

【部会長】

○応募は何施設か。

【オブザーバー】

○「しがけあガールズ」は12施設。「ON と OFF」は12から13人だった。

【委員】

○この2つの企画に同じ法人の施設が、A班にもB班にもあるが、両方で応募されたのか。

【オブザーバー】

○そのとおりで、各法人から応募があり、ピックアップし内容やルートを加味し決定した。

【事務局】

○応募法人数としては少なかった。応募いただいた中から何か所も回ろうとしたので、重なっているところもあった。

【委員】

○私は、応募していないところは、言い分は多分ないと思ひが、応募して採用されなかったところは、内容が今一つだったという結果は受け止めないといけないだろうが、結果的に偏ってしまっていて、落選したところの納得について懸念されるので、応募する側の立場として

あえて言わせていただいた。私だけの意見を主張するわけではないので、皆様が良いければ良いと思う。

【部会長】

○応募されたところは少なかったと思うが、手を挙げていただいたところは全て回るという事か。応募したけれど、行けないところはあったのか。

【オブザーバー】

○12か13の施設の応募があり、その中の8施設に行く予定である。

【委員】

○両企画で応募の中から選んで行くとなっているので、当然行かない施設はある。

【オブザーバー】

- 「ONとOFF」は申込が12人あり、そこから7人選んだ。
- 「NEXT」については、学校2校と、ふく楽Caféで高校生、あわせて3つ。
- 「しがけあガールズ」についても、申込が12か所でそこから8か所を回る。

【部会長】

○よく検討されての事だと思うが、応募したのに、「ONとOFF」「しがけあガールズ」がかぶっているのはどう思われるか心配でもあるが、検討されたということか。

【オブザーバー】

○1日で回れる数も限られるので、車移動で都合の良いところも考えながら4つずつを回ることにしたので、離れたところは行けないというところもあった。当然、ルートを考えるまでに内容を確認しているし、制作部署の意見も踏まえ選んだ。

【委員】

- 本来、事業所をアピールする企画では無いが、そういう風に受け取ってしまうところもある。
- 部会長が言われたように、偏ると機会損失と捉えられるかもしれない。企画全体としては、良い内容をアピールするのが大事なので、その主旨に立つと、重複していても致し方ないと納得するしかないのかなと思う。

【委員】

- オブザーバーにおいては、しっかりとこちらの考えを受け止めていただいていると感じている。
- 一方で、どのように出演者を並べていくのか、色んな要素が絡んでくるので、そこは大事にしないといけないところだと思う。野次馬みたいな意見で申し訳ない。

【委員】

○広く発信するとしているが、具体的にどこのサイトか決定しているか。

【オブザーバー】

○11月11日に特設サイトを公開し、そのタイミングでスマートニュースに告知する。同時に、プレスリリースも弊社で投げる。また、11月15日には、駅にポスターも掲示する予定。

【委員】

○これを見て、介護は良いなと思ってくれた若者に、ここに電話したら介護の仕事について教えて貰えるよとか、できれば人材センターの電話番号を載せてはいけないのかと思った。

【オブザーバー】

○受け手側に問題が無ければ特設サイトに載せることはできる。

【委員】

○もちろん、まずは魅力発信が先だと思うが、介護をやってみようと思った時に、相談できるような電話番号があればと思った。

○華頂社会福祉専門学校の留学生の件で、やる気のある留学生の姿が撮れたと聞いたが、できればそのデータをいただきたい。外国人の方々が、これから介護分野で働かれるケースが多くなる中で、外国人と事業所との仲介に紹介会社がたくさん入ったりすることは、ビジネスなので仕方がないが、高くなっている費用を抑えるために、国際介護・福祉人材センターが一生懸命やっているのだから、せっかくのこの機会にアピールしていきたいと思っている。

○ここ最近、直に外国人や海外から連絡が入ってくることが多くなった。私たちはSNS等に掲載してもらえるものには載せてもらうようにしていて、この前もタイの特設サイトを見たタイ人から連絡があって、紹介料も掛からずに事業所に紹介でき負担が軽減された。その軽減された分は、働いていただける外国人のお給料の上乗せができる好循環になると思う。

【オブザーバー】

○事務局との調整が必要だが、特設サイトにHPバナーリンクを貼らせていただき、特設サイトから繋げる仕掛けを作ろうと思っている。

【委員】

○とりあえずのきっかけは人材センターだと思うのでお願いしたい。

【委員】

○そう思った時が、いいタイミングだと思うので有りと思う。

【委員】

○逆に、この特設サイトのURLを法人のHPに掲載するのは可能か。

【オブザーバー】

○可能であるし、リンクしていただくとありがたい。URL等の情報や共通のバナーを共有させ

ていただく。

【部会長】

○smartnews と Instagram、YouTube、Google の WEB 広告において、ターゲットの年齢設定が細かく変えてあるが、それも意図的か。

【オブザーバー】

○最初の smartnews は幅広く、Instagram、YouTube は若者中心に、Google は幅広く観られるサイトになるので、そういうターゲットで狙っていこうと思っている。

【副部会長】

○これが、どれだけ広がるかが重要になってくると思うので、相互リンクしながら盛り上げていければと思っている。

【委員】

○学生のインタビューを受けたが、学生の文章に「介護士」という表現があり、当校は介護福祉士の養成施設なので「介護福祉士」に直していただかないと、と思いながら、原稿の修正を忘れていたかもしれない。

【オブザーバー】

○修正する。

【委員】

○各団体等の HP の話が出たが、ケアマネ協も HP 持っているので上手くそこに飛んで貰えると、ケアマネにもなりたいなど興味を持ってもらえたらと思う。

○たくさんインタビューされるという事で、介護職、介護福祉士が中心だろうと思い、ケアマネは抑え気味でいるが、イベント等では少しだけケアマネも頑張っているという事を出させていただければと思う。皆様頑張っておられるので、その熱さに追いつきたいと思っている。

○先ほどの取材先の件は、私はあまり施設の事がわからないが、ここはオブザーバーを信じるしかないかなと思っている。それぞれの施設でいきいきとした姿を見せてくれたらいいのかなと思った。

【部会長】

○今回、Facebook を外されたが、若者に浸透していないからか。

【オブザーバー】

○YouTube がよく見られているサイトであり、VTuber のアニメ動画を配信するにあたって、同時に告知する。「しがけあガールズ」の Instagram にあっても、同じ媒体の Instagram 発信のほうが、訴求力が高まるので採用した。

【副部長】

- 話が戻るが、応募したのに参加できなかった人や事業所があるということで、移動の手間等考えると、確かに一理あると思うが、例えば、ZOOMでインタビューしてみる等、数分でもいいから応募して下さった人達にも、リベンジのような企画を含むことはできないかと思ったがどうか。

【オブザーバー】

- 「NEXT」についても、当初6本くらい制作予定だったが、より多くとの意見をいただき、ライターのスケジュールも追加し、10本制作させていただいた。
- 各出演者とのスケジュールとライターのスケジュールを追加したりしながら、調整させていただいた。人数は多いに越したことはないが、極力多くの人数を取材させていただいた。

【事務局】

- 「ONとOFF」と「しがけあガールズ」の応募の状況について、事業所数としては10数件あった。法人単位で言えば、いずれかの企画で網羅させていただいており、その各法人と相談して取材場所を決めているのが現状である。逆に言うと、応募数としては少なかったということになるが、応募していただいたところには、なるべく行くようにさせていただいている。

【委員】

- 8施設のサービス種別の内訳を教えて欲しい。また、介護職が働いているところが、仰るところ以外にもあるなら、取材先を増やしたりしたほうが良いと思った。

【事務局】

- A班はグループホーム（甲賀）、デイサービス（甲賀）、介護老人保健施設（大津）、グループホーム（大津）。B班は介護老人保健施設（東近江）、特別養護老人ホーム（東近江）、特別養護老人ホーム（湖東）、看護小規模多機能型居宅介護（湖北）。

【委員】

- 看多機も入って、幅広く回っていると思った。

【部長】

- 今から事業所を増やすのはスケジュール的に難しいか。

【オブザーバー】

- 1日回れて4施設が限度であり、予算的にも困難。

【部長】

- 事務局の補足によると、応募した法人としては全てに、取材なり訪問はされたということか。

【事務局】

○そのとおりである。

【オブザーバー】

○応募いただいた分でどちらかに採用できるよう調整した。

【部会長】

○連合会でイベント日にブース出展する内容を YouTube の第 2 回目の内容とリンクしたいと考えている。ロボット・ICT 導入、最新設備の YouTube が企画されているので、YouTube で見たものが、リアルに会場で触れる、見える等の形で繋げさせてもらえたらと思って資料を見ていた。

○YouTube 第 2 回目、撮影日未定、ロケ地未定になっているので、決まり次第情報があれば教えてほしい。

2. 議題（2）令和4年度の取組について

※資料 2 により事務局から説明

【部会長】

○令和 3 年度の事業もこれからだが、ご質問・ご意見どうか。

○今年度、起ち上げた HP は、次年度にそれをベースに追加したり中身を変えたり活用するという方向か。

【事務局】

○そのように考えている。

【委員】

○今年度イオンモール草津で開催するにあたって、音楽系の制限がある中で内容を考えていけないといけない状況である。バンドなどは目立つ活動であると思う中で、来年度の会場をどうするのか。せっかく盛り上がるような事をできる場所として、そういう制限を緩和できれば良いと思う。参画してくれようとしている形が、やりたいことができる環境を考えていければ良いかなと思っている。

【部会長】

○各種団体がやりたいこと、やってみたいことを提案していただいている。イオンモール草津では音楽の制限があった。大きな音が出せないとか。

【事務局】

○鐘は鳴らせないなど、楽器の種類も制限がある。

○元々、イベント実施にあたっては、呼び込むのが難しいので、人がいるところで開催しようということもあるので、両方踏まえない。

【委員】

○人が集まるイオンモールはいいなと思うが、例えばイオンモールの駐車場を開放するとか、場所で工夫できればいいなと思う。

【部会長】

○イベント会場等の選定は事務局か委託先かどちらが決めるのか。

【事務局】

○前回の会議で、同じ場所にするか、変えるのか、について意見をいただいたが、一度開催してみて、それから3月に検討、判断するというのは、時間的にも大丈夫と考えている。

【部会長】

○3月に事務局が決めてくれるということか。

【事務局】

○そこで、議論いただきたいと思う。

○皆で一致すればいいが、そうもいかない場合もあると思うので、意見をいただいて、もし決まらなければ、議論を参考にした上で、県の事業として当課が判断するというように考えている。

【部会長】

○次年度の委託事業者が決まるのは6月くらいか。

【事務局】

○今年度と同様のスケジュールであれば、そのとおり。

【委員】

○今年度、オブザーバーに取り組んでいただいて、来年度はわからないが、せっかく特設サイトをオープンしたので、内容は私たちが頑張って介護の良さを入れ込んでいけばいいのかなど思っているが、まずは、この特設サイトに入っていないといけないと思う。

○どんな良い新しいサイトを作ったとしても、滋賀県にいる21万人に届かないといけない。もし、自分であればサイトやポスターだけを見て入ろうとは思わない。サイトに入る仕組みも必要であると強く思う。

○しつこいが、アニメのCM化が一番良いと思う。なかなか、予算がおりないと思うが、それが無理なら、例えば、サイトに入らないと何らかのゲームができないものや、滋賀の飲食店のクーポンが中にあるとか、若者をこのサイトに誘導できる仕掛けが来年度は必要だと思う。

【部会長】

○オブザーバーは、次年度も委託を受けていただくかは決まってないが、本年度HPを起ち上げて、そこに集客する手法やアイデア等、持っているか。

【オブザーバー】

- まず、今年「しがけあ」というワードを作り、初年度なので、これから認知拡大を図っていくことが、大事と思っている。例えば、「しがけあ」のロゴを使ったステッカーを作って、各団体に配布し、インナーのスタッフから「しがけあ」の意識を高めることが大事だと思う。
- 外部向けには、ショートフィルム、ウェブコンテンツ、イベントで「しがけあ」の遡及をしていきたいと思っている。
- 一方で前回の会議でもあったように、皆さんの最終目的は、介護業界の就職拡大がゴールだと思うので、介護職を就職の選択肢とするきっかけ作りに注力していった方がいいかなと思っている。例えば、ふく楽Caféのような、しがけあスクールを作り、高校生や大学生を巻き込んだ、しがの介護のこれからをテーマに校外学習のようなものを開催することによって、若年層育成していくところに注力してはどうかと思っている。

【部会長】

- 特設サイトを立ち上げてからの集客方法について、委員はどうか。

【委員】

- 思いつくものはいっぱいあるが、形式化された定石みたいなものは未だ無い、と面白いと思う。
- ただ、WEB 広告を得意としている企業は、誘導については緻密に組み立てている。オブザーバーも、そこについて色々な知見をお持ちであるので、誘導方法はプロに任せる方が賢いと思う。素人が色々な事を考えても、特に若い人たちが使っている SNS の状況は、私も学生と日々触れ合っているがよくわからない。彼らは日々新しい使い方を編み出していると思う。
- SNS を使った伝え方は、むしろ若い方たちに聞いたほうが早いと言えるだろうし、それも含めて、広告やイベント等との連動という意味では、プロの事業者にお問い合わせの方が賢いと思う。
- 来年の担当はわからないという話で動いていて、予算の仕組み上そうだが、実態としてこの案件は、複数年オブザーバーに引き受けて貰うという、つもりで進めないとうまくいかないと思う。ぶつ切りではうまくいかないの、そこは役所でうまく工夫して、委託先が継続して動いていただけるような予算の執行の工夫をやっていただく必要があると思う。事実上、随契になるような運営をする方が賢いと思う。お金が無駄にならないという意味である。

【部会長】

- 毎年、委託事業者が変わると、効果が薄れ、もったいないということ。

【委員】

- 今話しながらイメージが湧いてきたが、いわゆるアイデアマラソン。アイデアを出し続けることを競うようなイベントのやり方があるが、しがけあというサイトを如何に広めて行くかについて、アイデアを出し合うイベントを企画するというのはよく使う例。それを含め、オブザーバーに考えてもらうといい。

【部会長】

- 事務局も難しいと思うが、参考にさせていただければと思う。

【オブザーバー】

○弊社は、WEB チームの人数が関西一多く、WEB に強い会社になっているので、HP の導入も頑張りたいと思う。

【委員】

○最近、専門学校や大学に行き、インターンシップや業界研究というキーワードが出てくるが、それによって単位が取れることになっているようなので、魅力発信の中で参加型であったり、体験型で訴えることが、高校生から大学生が引き寄せられる方法になるかもしれない。ご検討していただきたい。

○今回、オンラインツアーのチラシを作成したが、学校から業界研究と記載していただければ学内で出来るという意見もいただいたところ。

【部会長】

○インターンシップ等で単位が取得できることができるのか。委員どうか。

【委員】

○一応、授業の一コマとして、来ていただくことは可能。いつも、人材センターのふく楽Caféは授業として学生は強制参加という形でしている。

○例えば、東近江市役所とコラボさせていただいて就職に関する説明会があり、施設によっては上手に動画を撮って学生に見せてくれる。そのようなものがあると、例えば、オープンキャンパスで高校生が来たり、高校訪問時に動画があれば介護の仕事が紹介できるが、動画撮影は難しいので、そういうことも次年度考えていただきたい。施設でも使用できると思う。

【部会長】

○今年度も動画等作成するが、希望する事業所が自由に使用していいものなのか。著作権はどこが持っているのか。

【オブザーバー】

○作る予定の「ぼこピー」については、「ぼこピー」側のYouTube サイト内で掲載するので、その2次使用については、要相談となる。これから新たに作るとなると、その辺りを加味しながら著作権等問題ないものを作っていく必要があると考える。

【事務局】

○特設サイトがあるので、ここに載っていると紹介すること自体は、誰にでも可能と思っている。

【委員】

○滋老協で役員していて、ここでやっていることを持ち帰ると、今まで団体で人材確保等取り組んでいたことを見直さないといけないきっかけとなっている。

- 今やっていることのスケール感や、築地委員のような専門家を含めて、さらに今回、オブザーバーも加えて、ここまでノウハウを見せていただく機会が無かった。それによって自分たちにおいて、今までと違う取り組みに繋がりがつある。
- そういう意味で、この事業というか部会の役割が滋賀県にとって大きくなって来ると感じている。一方で、東近江市でやっている人材確保事業があるが、予算規模が限られている中で、県全体でこうした動きをしていることと、もうひとつ結び付かないところがある。
- 事務局が言われたような市町と連携するなど、あるいは市町の人材確保の取組をこの部会で集約するというと違うかもしれないが、魅力発信事業の場の存在は大きくなっていると思うし、色んなノウハウがここにあり続けるのが大事なのではないかと思う。

【部会長】

- 介護福祉士会の中村さんも、人材確保に関する事業取組をいろいろされてきたと思うが、今回の事業に関して団体との結びつき等どうか。

【副部会長】

- 個体でするよりも、様々な事業所と連携しながら大きな事をして、発信力も全然ちがうので、そこはすごくいいと思う。
- ただ、イベントをして考えることはみんな似たり寄ったりなので、そこは来年度、団体毎で企画しなくても良いのではないかと思っている。

【部会長】

- 連合会でも、オブザーバーが素晴らしい企画をあげて来られたときに、うちがやろうと思っていたことを網羅されていて、どうしようという話になったので、前もってこんなイベントになると言ってもらいたいと一部のコアメンバーが言っていた。前もって言ってもらえると、うちの団体で色々議論できたのという意見も出ていた。
- ケアマネ協さんも人材確保に苦労されていると思うが、今回の事業で、何かプラスになればという事で、次年度に繋げてほしいこと等どうか。

【委員】

- 今回こんなスケールになると思わず参加して、かなり戸惑いながら付いていっているが、新しい知識をいただいている。
- それぞれの団体や事業所で、ケアマネのなり手が少なく、募集しても来ない事業所があり、困っているところがある。個々に努力はしているがなかなか繋がらない。団体でもケアマネになって頑張ってもらいたいと伝えようとするが伝わらず、どうしたらいいかと考えていたところ。ここに参画させてもらい、介護の魅力や仕事のやりがいを発信できればいいと思う。それぞれの団体が、力を合わせる事が本当に大事だなと感じた。
- 副部会長が言われたように、それぞれの団体で企画を考えると同じようになるが、いくつかの企画に、みんなが参加することがあっていいのかなと思った。次回は、同じステージにみんなで行くのも有りかなと思う。今回、インタビューもバラバラだったが何人か一緒にするのも有りだと思う。
- とにかく、総合力で頑張るしかないと思う。みんなで、力を合わせて出来たらいいなと思

う。

【委員】

- お話を聞いていて気づいた、あるいは知ったが、それぞれが人材確保や人材を迎える為の活動をしている。それが、必ずしも全体としてハーモニーになっていないと口々に言われていた。それぞれの動きが上手くハーモニーを奏するには、早めに次のリズムや音がわかっていれば、準備ができ合わせることができる。この状況をどの様にして行くかが大きな問題だと感じた。
- 年度単位での活動は継続性が保てず無理がある。6月ごろに委託先が決まって、それから企画立ててみたい。各団体においても4月から予算年度が始まり、人事が行われると思う。
- 今は、その問題があることが共有されたというところまでで充分だと思うが、今後の事を考えると、複数年度の予算を立てていくことや、あるいは、県庁からは補助金として年度単位で出るけどもそれを何かの組織が受け取り、基金化して運用して行くというやり方も考えられる。私共に文科省から出てくる科学研究費補助金というのは、平成23年度から基金ができるようになって、受け皿の組織をきちっと決めたい。文科省からは年度単位でお金が出てくるが、支出については複数年度にわたってできるようにするという仕掛けを作ったりしている。
- そのあたりは是非、役所の方で研究していただきたい。今実施していることがすぐに複数年度に移行できるかというところまでのテクニカルなことはわからないが、少なくとも来年度何をするかということは、今年度中に見える化しておいて、市町にも周知して、動きがあれば共有できる関係性を築き、2月くらいに情報集約すると、翌年度ロケットスタートできるのではないかと思った。

【委員】

- 確認したいが、資料の中にポスター案があったが掲示用なのか。チラシを作成して配布する予定はあるか。もし、チラシを作成するのであれば、11/11に社会福祉士会の会員に発送があり、発信できるので、予定を教えてください。

【オブザーバー】

- イベント用のチラシは作成しているが、しげあサイトのチラシの予定はない。

【委員】

- 各事業所への配布はどうなっているか。老協や連合会を通じて配布なのか

【オブザーバー】

- 数に限りがあり、各団体に4枚か5枚。データで送ることは可能である。

【事務局】

- 元々、紙で広報する方針ではなかった。

【委員】

- 各団体でチラシとしてプリントアウトして、配布するのは有りか。

【オブザーバー】

○弊社的には問題ない

【委員】

○今後の社会福祉士会で行なわれる記事集めの発信を考えているので、その一部に掲載したいと思っている。

【副部長】

○ポスターの配布先は、参加している団体への配布になるか。
○できれば、介護に関係していない方たちに来ていただきたいので、そうじゃないところに配布の方が、良いのかなと思った。

【部長】

○今年度は、その予算を取っていないということか。追加印刷は難しいか。

【事務局】

○WEBによる公告で。

【事務局】

○今、県庁の中でも、これだけの予算規模でPR事業をすることがなかなか無い。それだけに、成果も求められるシビアな面もあると思っている。県庁だけでは、成果に結び付かないし、皆様から総力戦でとの話もいただいた中、介護業界みんなで盛り上げていきたいので、引き続きよろしくお願ひしたい。お気づきの点はどんどん頂戴したい。